

第9回 観光戦略実行推進タスクフォース 議事要旨

1. 日時：平成29年4月6日（木）17:00～18:00
2. 場所：官邸2階小ホール
3. 出席者：
（政府側）
菅内閣官房長官、石井国土交通大臣、萩生田内閣官房副長官、野上内閣官房副長官、和泉内閣総理大臣補佐官、田村観光庁長官、松永内閣官房内閣審議官、蝦名内閣官房内閣審議官、頼内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長、井内内閣府大臣官房総括審議官、板谷宮内庁長官官房皇室経済主管、宮田文化庁長官、佐藤農林水産省農村振興局長、沖林野庁次長、藤田国土交通省総合政策局長、亀澤環境省自然環境局長
（有識者・敬称略）
中村昌生（京都工芸繊維大学名誉教授）、涌井史郎（東京都市大学環境情報学部教授）、大西雅之（鶴雅ホールディングス株式会社代表取締役社長）、前田幸夫（凸版印刷株式会社専務取締役）、デービッド・アトキンソン（株式会社小西美術工藝社代表取締役社長）
4. 議題：観光ビジョンに掲げた施策のより一層の推進に向けた有識者からのヒアリング
5. 議事概要
 - 「観光資源の保存と活用」をテーマに、観光ビジョンに掲げた施策のより一層の推進に向け、中村氏より京都迎賓館等について（資料3）、涌井氏より国立公園など自然地や自然共生の思想を活用したインバウンド戦略について（資料4）、大西氏より阿寒温泉が目指す国際競争力のある「ナショナルパーク」について（資料5）、前田氏よりトッパンが考える文化財の観光資源としての活用について（資料6）、アトキンソン氏より観光資源の保存と活用について（資料7）、それぞれ資料に基づきプレゼン。
 - 意見交換の後、石井国土交通大臣、菅内閣官房長官よりご発言。主な内容は以下のとおり。
【石井国土交通大臣】
 - ・有識者の皆様には、お忙しい中、有意義なご意見を賜り、感謝申し上げます。
 - ・迎賓館等の公的施設、文化財、国立公園等の観光資源の活用について、これまでの取組を更に一歩進めるため、巧みの技やバーチャル・リアリティのような新技術の活用、民間のノウハウを使った取組、ネットを活用した情報発信体制など、大変示唆に富むご意見をいただいた。
 - ・国土交通省としては、3月31日に観光資源の磨き上げによって地域活性化につな

げる景観まちづくり刷新モデル地区を全国で10地区指定するなど、地域の自治体とも連携しながら勧告ビジョンに掲げられた施策を着実に実施している。

- ・各省庁においては、観光ビジョンに掲げられた取組を加速化するとともに、本日の有識者からのご意見をはじめとした多様なニーズや発想に対応し、新たな施策にも積極的に取り組んでいただきたい。

【菅内閣官房長官】

- ・有識者の皆様、大変貴重なご意見であり、感謝申し上げます。
- ・ビザの緩和など、観光先進国を推進するために大胆な施策を矢継ぎ早に打ち出してきた。その結果、昨年は2,400万人の外国人旅行者数を数えることができた。
- ・この勢いを継続し、2020年に4,000万人の目標を実現するためには、観光ビジョンで打ち出した新たな考え方を後退することなく、大胆、そして、確実に実行に移していくことが極めて重要である。その意味においても正念場である。
- ・各省庁は、有識者の意見を十分に受け止め、これまでの保存中心の考え方から観光に活用していくという観光ビジョンの考え方を思い切って実行していただきたい。
- ・また、各省庁の取組を後押しするために、内閣官房の大胆な体制強化を図る必要がある。各省庁から内閣官房に人材を派遣し、英知を結集することによって政府一丸となって既成概念を打ち破る大胆な施策を積極的に実現してまいりたい。
- ・本年は、2020年の4,000万人へ道筋を確実につける大事な年であるので、有識者の貴重なご意見をもとに、各省庁が一丸となって取り組んでまいるので、更なる貴重なご意見を賜りたい。

○蝦名内閣官房内閣審議官より閉会

- ・本日の第9回会合はここで閉会する。なお、次回日程は追って連絡する。

以 上